



あいじつ



開校 143周年

続ける

校長 佐藤 郁子

いよいよ明日はスポーツフェスタです。秋晴れの中、無事に実施されることを願うばかりです。今回は、参観者に制限を設けずに開催できますこと、大変嬉しく思っております。本年度は秋開催としました。学校生活や新学年にも慣れた時期での実施となり、子ども達のより成長した姿をご覧いただけたらと思っています。係活動にも励む6年生を見ると、学年の歩みを感じられます。

さて、運動会のことを調べていた際に、体育の学習の際に付き物の「紅白帽」についてちょっと面白い内容を発見しました。紅白帽の由来については諸説あるようですが、紅白帽が登場したのは、今から45年ほど前で、それ以前は紅白の鉢巻が一般的だったそうです。この表裏の紅白の帽子を考案したのは、柳家金語楼という落語家らしいのです。金語楼は落語家としても売れっ子で、紫綬褒章も受賞した人物です。生涯で2000篇もの新作落語をつくり、発明家(!)としても活躍したそうです。紅白帽のほかに、爪楊枝の頭に折り取りようの切り込みを設け、箸置きのように使うアイデアを実用新案登録したとも言われています。

一体、柳家金語楼とはどんな人物だったのでしょうか。頭の回転が速く、才気あふれる人物だったであろうことは想像に難くありません。好奇心旺盛で自分の立ち位置と異なる分野にも興味をもち、楽しめた人なのではないでしょうか。そして、おそらくここが一番肝心だと思うのですが、常に「なぜ? どうして?」を考え続けられた人だと思えます。ポイントは考え「続ける」こと。物事に直面した際に、なぜ? どうして? と疑問に思うことはよくあります。しかし、それならこうしたらどうだろう? とその先に思考をつなげていくことは、必要のない限りやりません。疑問は疑問のまま忘れていきます。しかし、金語楼は興味をもったこと、疑問に思ったことを考え「続け」られる人だと思えます。ですから、落語の分野に関係ない紅白帽や爪楊枝のアイデアにたどり着いたのでしょう。

何事も「続ける」には、根気がいります。そして、「続けた」ことには成果がでるのです。

外国語活動について

担当

昨年度に引き続き、ALTの先生と5・6年生の外国語講師の先生と一緒に外国語の学習に取り組んでいます。

前期には、ALTや周りの友達とコミュニケーションを取ろうとしている姿がたくさん見られました。

低学年では、英語の音声やリズムにふれ、O×ゲームやキーワードゲーム等を楽しみながら活動しています。

中学年は外国語に慣れ親しみ、高学年は学習を通して外国語を身に付けています。

日常生活の中でも、外国語は様々な場所で使われています。身の回りにある外国語を見つけて、自分たちの生活にも言葉や文化が溶け込んでいることを感じてみましょう。

なかよしの日について

担当

9月21日(木)にたてわり班活動「なかよしの日」を行いました。1年生から6年生までの約16人で構成された班で遊びを通して交流を深める活動です。年3回設定されています。今回はあいじつこども園と長延保育園の園児も参加し、王様じゃんけんやハンカチ落としなど、6年生がみんなで楽しめる遊びを事前に考えて当日の進行役を行いました。

5年生は、園児を遊び場所に誘導してくれました。高学年の児童が緊張している園児や低学年の児童に優しく声をかける姿はとても微笑ましかったです。

次回は2月に行う予定です。今回の活動を踏まえてより楽しく過ごせる活動になるように準備をしていきます。